

要 約

- (1) 温帯に分布する海草と種類の異なる当海域での海草の生長を知るため、1980年5～6月(初夏)と1981年1～2月(冬)の2回リュウキュウアマモとリュウキュウスガモの葉の生長量調査を行なった。リュウキュウアマモは初夏に21.3～25.4(mm/週)冬に7.3～10.6、リュウキュウスガモは初夏に15.2～19.7、冬に6.0～8.8と、両種とも初夏に生長が良かった。またリュウキュウアマモの生長様式も観察した。
- (2) 柵網を設置して大型魚類相を調べた。主要な漁獲物は、アオリイカ、ゴマアイゴ、ホシサヨリなどであった。
- (3) 幼魚類の藻場での出現状況を明らかにするため、1980年4月より1981年3月まで毎月刺網漁獲試験を実施した。その結果、アイゴ類、フェフキダイ類、ブダイ類、ヒメジ類、ヒメフエダイ等の幼魚が藻場に生息することが明らかになった。また、それぞれの種についての出現状況も把握できた。
- (4) 1980年7月9日に平均尾叉長9.4 cmのミナミクロダイを7,018尾標識放流した。また同年9月25日には平均尾叉長8.6 cmのハマフエフキを3,050尾標識放流した。
- (5) 海草藻場の葉上動物について、1979年7月より1980年6月まで、ほぼ2ヶ月毎に調査した。葉上動物では、端脚類・多毛類が周年に亘って優占的であった。
- (6) 現在までに設置した3種の魚礁のうちヒューム管魚礁・フィルム魚礁の埋没、沈下・流失状況が激しく蝸集効果の著しい低下がみられた。新たな魚礁の設置が望まれる。
- (7) 保護水面内外の3地点で、水温・塩分・pH・DO・COD・NH₄-N・NO₂-N・NO₃-N・PO₄-Pの各項目について測定した。

参 考 文 献

- Mukai, H., Aioi, K., Koike, I., Iizumi, H., Ohtsu, M., and Hattori, A. 1979. Growth and organic production of eelgrass (*Zostera marina*) in temperate waters of the pacific coast of Japan. I. Growth analysis in spring-summer. *Aquatic Botany* 7: 47 - 56.
- 日本海洋学会編. 1980. 海洋環境調査法. 恒星社厚生閣.
- 日本水産資源保護協会編. 1980. 新編水質汚濁調査指針. 恒星社厚生閣.
- 沖縄県水産試験場八重山支場. 1977. 昭和50・51年度名蔵湾保護水面調査報告.
- 沖縄県水産試験場八重山支場. 1979. 昭和53年度名蔵湾保護水面調査報告.
- 沖縄県水産試験場八重山支場. 1980. 昭和54年度名蔵湾保護水面調査報告.
- Strickland, J. D. H. and Parsons, T. R. 1968. A practical handbook of seawater analysis. Fisheries Research Board of Canada.
- 東海区水研. 1972. 漁海況予報事業に伴う浅海定線調査特定項目の分析方法.
- 月館潤一, 高森茂樹. 1977. アマモの生長様式について. 南西水研報10: 123～130

渡辺利明，山城甚英．1979．藻場調査及び藻場造成．昭和53年度沖縄県水産試験場事業報告書
：71 - 83

Zieman, J. C. 1975. Quantitative and dynamic aspects of the ecology of
turtle grass Thalassia testudinum. In: Estuarine Research, Vol. 1.; ed.
Cronin, L. E. pp541 - 562, Academic Press. New York.

調査担当者

渡 辺 利 明

勝 俣 亜 生